



● 続・タイの高専学生への授業事例

10月1日より始まったタイ高専の授業は順調に進捗しています。15日には、つくば方面にバス旅行をしました。JAXA 筑波宇宙センターとロボットスーツでお馴染みのサイバーデザイン社を見学しました。タイ高専学生だけでなく私自身も楽しめる内容でした。

日本の科学技術を学びつつ、タイ高専の授業の一環として“Information Engineering Project”（情報工学プロジェクト）が期間中に行われています。3名のタイ高専学生と2名の木更津高専学生がひとつのチームとなり、合計6チームで問題解決につながるユニット開発を以下の流れで進めています。

- ①タイにおける諸問題（社会問題、環境問題など）を設定する。
- ②設定した問題に対して「SDGsの17の目標」と照らし合わせながら解決方法のアイデアを自由に出す。
- ③KJ法を用いてアイデアをまとめ、開発テーマを具体化させる。
- ④開発テーマに従ってESP32、Arduinoなど小型マイコンを用いて、入出力ユニットを開発する。この手法を色彩教材研究会でトライし、Arduinoは色彩教材研究会で取入れたいと考えています。（吉澤陽介 主査より:013）

『MIC2024・今年の色』募集のご案内

日本色彩学会では本年度も皆様から一年を代表する『今年の色』を募集し、応募をお待ちしております。

『MIC(Most Impressive Color)2024』～2024年を彩った色～として、一年間を色彩という目線から振り返り、その年のイメージを共有するべく、2024年を代表する色を決定いたします。

本年度も応募者優待として2025年3月20日午後開催予定のInternational Colour Day（インターナショナル・カラー・デイ）のイベントに、参加費無料（希望者のみ）で、ご招待をさせていただきます。

日本色彩学会員の方はもちろん、非会員の方も応募は無料です。色に関心のある幅広い方々の参加応募をお待ちしておりますので、色彩教材研究会に関わる皆様のご協力を、是非ともよろしくお願い申し上げます。

応募期間：2024年（令和6年）10月8日（火）～12月8日（日）

応募フォーム&詳細：

<https://forms.gle/qBwiYYmVB8U26nRJ7>

（日本色彩学会 MIC&ICD 担当 高田瑠美子）

● 万葉集のなかの色名 -19

ほととぎす 厭う時なし 菖蒲
かずらにせむ日 日こゆ鳴き渡れ
夏雑歌（巻10-1955）

われのみや かく恋すらむ 杜若
丹つらふ妹は 如何にかあるらむ
夏の相聞（巻10-1986）

吾妹子に 棟の花は 散り過ぎず
今咲ける如 ありこせぬかも
夏雑歌（巻10-1973）

白玉の 五百つ集ひを 解きも見ず
吾は離れかてぬ 逢はむ日待つに
秋の雑歌（巻10-2012）

天の原 い行きて射むと 白真弓
ひきて隠せる 月人壮子
秋の雑歌（巻10-2051）

朝顔は 朝露負ひて 咲くといえど
夕影にこそ 咲きまさりけれ
秋の雑歌（巻10-2104）

菖蒲は「あやめぐさ」と読む。端午の節句に菖蒲で髪飾りを作るつくろ習慣があった。菖蒲と杜若はこの頃から区別されていた。棟は「あふち」と読み「せんだん」のことで薄紫の花が咲く。白真弓は白檀で作った弓のこと。月人壮子は、「つきひとおとこ」。

*講談社文庫・中西進・万葉集から（永田泰弘）